

令和3年度 市民大学リレー講座

SDGs～持続可能な社会の実現のために～

## 未来から今を見つめる

SDGs



市内5大学が「SDGs」をテーマに様々な切り口から講義をお届けします。

第1回

9/24 (金)

静岡大学

サステナビリティセンター  
センター長 堂園 俊彦

「誰一人とり残さない」をあらためて考える

第2回

10/1 (金)

静岡県立大学

日本学術会議連携会員  
学長補佐・SDGsイニシアチブ推進委員会 委員長  
食品栄養科学部環境生命科学科教授

谷 晃 教授

営農型太陽光発電と農業の持続可能性

第3回

10/15 (金)

静岡英和学院大学

短期大学部・食物栄養学科

小山 ゆう 准教授

持続可能で健康的な食事

第4回

10/29 (金)

常葉大学

造形学部・造形学科

村井 貴 講師

科学技術コミュニケーションのすゝめ

第5回

11/12 (金)

東海大学

海洋学部・海洋文明学科

川崎 一平 教授

未来と世界と人間を考え、動く力:大学が目指す人づくり

受講料  
**無料**  
連続参加を  
基本とします

会場

静岡市役所 静岡庁舎 3階 食堂スペース「茶木魚」

※当日は、会場の駐車場が利用できないため、公共交通機関または周辺の駐車場をご利用ください。

時間

18時30分～20時00分(90分)

定員

- 会場にて参加:40人(申込順)
- オンラインにて参加:40人(申込順)

申込方法

①  
会場参加

静岡市コールセンター(年中無休・午前8時～午後8時)

TEL.054-200-4894へお申し込みください。

②  
オンライン参加静岡市webサイト内から  
電子申請にて申込み

※申込の際は、どちらか一つ参加方法をお選びください。オンライン配信は「Zoom」を利用します。

申込期間

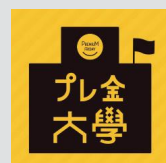
会場、オンラインともに9月1日(水)から9月17日(金)まで

全5回出席された方には修了証書を授与します

本講座は「しずおか県民カレッジ」の連携講座です。

静岡市・5大学連携事業(静岡英和学院大学/静岡県立大学/静岡大学/東海大学/常葉大学・50音順)

問合せ先:静岡市生涯学習推進課 〒420-8602 静岡市葵区追手町5-1 TEL.054-221-1207 FAX.054-221-1758



# 未来から今を見つめるSDGs

時間 18時30分～20時00分(全5回)

会場 静岡市役所静岡庁舎3階食堂スペース「茶木魚」

第1回

9/24 金



静岡大学

サステナビリティセンター

センター長 堂園 俊彦

## 「誰一人とり残さない」をあらためて考える



SDGsは「誰一人とり残さない」世界の実現のために必要な目標です。

それでは、「誰一人とり残さない」とは何を意味しているのでしょうか？SDGsが広まるなか、通常このようなことは問題になりません。しかし、この問いを考えるさいに鍵となる「人間の尊厳」は、さまざまな批判にさらされてきました。今回は、SDGsの思想的背景を紹介しながら、みなさんとともに、「誰一人とり残さない」についてあらためて考えたいと思います。

第2回

10/1 金



静岡県立大学

日本学会議連携会員

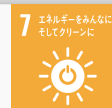
学長補佐・SDGsイニシアチブ

推進委員会 委員長

食品栄養科学部環境生命科学科教授

谷 晃 教授

## 営農型太陽光発電と農業の持続可能性



SDGsおよび脱炭素化社会の達成には再生可能エネルギーの普及が必要

です。太陽光発電の一形態として、農地の上に太陽光パネルを設置して、農業を営みながら売電し収入が得られる営農型太陽光発電が普及しつつあります。作物生産物の収入に加えてエネルギー生産による売電収入が得られることは、農家の経営安定化や後継者確保、さらに農地の維持につながります。本講演では、営農型太陽光発電のメリット、デメリット、将来性などについてお話します。

第3回

10/15 金



静岡英和学院大学

短期大学部・食物栄養学科

小山 ゆう 准教授

## 持続可能で健康的な食事



私たち人間が「食べ物」と呼んでいるものは、地球上の植物や動物であることを忘れてはなりません。環境破壊問題が叫ばれ、絶滅危惧種が増えている現代において、それでも食事をしていく私たち人間にとって、栄養、食品、食事の在り方は大変複雑です。その中でも地球環境への負担を考慮し、かつ健康的な食事が可能かどうかについてお話します。

第4回

10/29 金



常葉大学

造形学部・造形学科

村井 貴 講師

## 科学技術コミュニケーションのすすめ



SDGsへアプローチする手段のひとつとして、専門家と市民をつなぐ

「科学技術コミュニケーション」があります。多様な立場を持つ人々がひとつのテーマについて対話することで、社会をあらゆる視点で考えることができるようになります。本講座では、対話形式で、事例を紹介しながら、科学技術コミュニケーションとSDGsに迫ります。

聞き手：櫻井弘道(科学技術コミュニケーション)

第5回

11/12 金



東海大学

海洋学部・海洋文明学科

川崎 一平 教授

## 未来と世界と人間を考え、動く力:大学が目指す人づくり



SDGsの達成には、国・地方自治体などの行政機関だけではなく、企業、学校等の教育機関、民間団体などの組織体から、個々人の取組みに至るまで、様々なレベルでの連携が必要です。しかし、どのような活動体や制度が作られたとしても、それを支え動かしていくのは、ひとりひとりの人間であることには違いありません。人づくりという大きな使命を担ってきた大学の今後のありかたをご紹介していきたいと思ひます。